

パソコンの基礎

O S S つぼみ学習会

H18.01.24

まず始めに！ 「簡単なパソコンの仕組み」

1 パソコンって？（起動させる前に）

?パソコンとその周りをじっくりと見てみよう！ 何があるかな？

デスクトップパソコン では

パソコン本体、ディスプレイ、キーボード、マウス、プリンター、スピーカー、その他
本体に FDD(フロッピーディスクドライブ)とCD(DVD)ドライブ、内部にハードディスク、その他

ノートパソコン では

パソコン本体、電源アダプター、マウス
本体に キーボード、ディスプレイ、ポインター、スピーカー、FDDとCD(DVD)ドライブ
内部にハードディスク、プリント基板、その他

?それは、なに？

- ・ディスプレイ - 文字や画を表示する出力装置
- ・パソコン本体 - データを記憶したり、演算するパソコンの頭脳
- ・キーボード - 文字や記号を入力する装置
- ・マウス - 位置を示す入力装置
ノートパソコンにはマウスの代わりにする、ポインターがあります。
- ・スピーカー - 音を出す
- ・FDD - フロッピーディスク(FD)にデータを読み書きする(FDD=フロッピーディスクドライブ)
容量が1.4MBの比較的小容量のデータを読み書きできる入出力装置。
データの保存や、他のパソコンとのデータ交換等に使います。
- ・CDドライブ - CDからデータを読み込む(DVDドライブ - DVDからデータを読み込む)
プログラムやデータが書き込まれたCD(コンパクトディスク)を読み込む装置
最近のパソコンには、CDの読み込みだけでなく、CDへの書き込み、DVDへの読み書きができるマルチディスクドライブが装着されているものがある。
注意=パソコン用データCDをステレオ等オーディオ機器に入れないこと。
- ・ハードディスク(HD) - ソフトウェア(プログラム・命令)、データ等を記憶する装置です。
電源を切っても消えることはありません。HDD(ハードディスクドライブ)
パソコンの基本ソフト(OS)やワープロ、表計算ソフト(アプリケーションソフト)そしてそれらで作成したデータ等を記憶・保存しておく装置。データをファイルというまとまり・形で、フォルダーと呼ばれる入れ物を作りその中に記憶されます。最近では数GBから数百GBの容量があります。

?パソコン内部のプリント基板には？

- ・CPU - 演算・制御装置、メモリ上のソフトウェア(命令)に従って、各種機器を制御したり、各種計算を行う、パソコンの頭脳です。プロセッサ(セントラル・プロセッサ・ユニット)
- ・メモリー - 一時記憶装置、ソフトウェア(プログラム・命令)、データを一時的に記憶する装置です。
メモリー上のデータは電源を切ると消えてしまいます。

ハード(ハードウェア)とソフト(ソフトウェア)

ハードウェアは、パソコン本体、プリンター等の装置類その物のことです。ソフトウェアが無ければ何の役にも立ちません。

ソフトウェアは、パソコンを動作させる各種のプログラム(動作手順)や、各種のデータ類をいいます。
パソコンの基本的な働きをさせるOS(オペレーティングシステム、WINDOWS X P等)、ワープロや表計算、画像処理ソフトなど仕事に使うアプリケーションソフト、さらに、OSとハードウェアの仲介役の各種ドライバソフトなどがあります。最も下層のソフトとしてBIOS(バイオス)があります。

? パソコンには何が書かれているかな?

書かれている文字や記号等は、製造メーカーにより、また製品により異なります。



パソコンの簡単な仕組み

? どうして動くの?、どうしてパソコンなの?

キーボード
マウス
人から機械へ
(入力)

CPU
メモリー
機械の中で
(処理)
プログラム

ディスプレイ
プリンター
機械から人へ
(出力)

機械から機械
(読出・記憶) プログラム・データ
ハードディスク
F D・C D・D V D

パソコンの基本的動作

? 電源を入れる順番、なぜ順番があるの? 起動するまで、なぜ時間がかかるの?

電源を入れると、OS、そのパソコンの設定情報、周辺装置の接続状況さらに各種ドライバソフト等が、ハードディスク(HDD)からメモリー上に読み込まれ、パソコンとして基本動作ができるようになります。パソコンの起動には、装置の状況により30秒から数分かかります。

起動が完了すると、ディスプレイ上に各種アイコン等が表示され、キーボードやマウスが使用できるようになります。

使用したい目的のソフトのアイコン等を(ダブル)クリックすることで、HD上からそのソフトがメモリーに読み込まれ起動します。ディスプレイの表示もそのソフト用ウィンドウが表示されます。

キーボード等を使用しデータを作成すると、そのデータはキーボード・ドライバソフトを介しアプリケーションソフトに渡されメモリー上に文字列として作られ、印刷するときは、メモリー上のデータがプリンタドライバソフトを介し印刷されます。

アプリケーションソフトの保存命令を与えると、メモリー上のデータはHDDドライバソフトを介し、ハードディスク上の指定された場所へ格納されます。

アプリケーションソフトの終了命令が与えられると、そのソフトの設定情報等をHDの所定個所に格納し、終了します。

? なぜ、いきなり電源を切れないの? なぜ、パソコンの電源が切れるまでに、時間がかかるの?

ウィンドウズの終了命令を与えると、そのパソコンの設定情報をHDの所定個所に格納し、OS、各種ドライバソフトを停止し、最後に電源を自動的に切断します。

機種によっては、電源を切れる状態にします。

電源の入れ方 (WINDOWSの起動)

電源は、パソコンに接続されているディスプレイやプリンタなどの周辺装置を先に投入し、最後にパソコン本体の電源を入れます。

注意 F D (フロッピーディスク)が入っていると、F Dから起動しようとするので、F D DにはF Dを入れないでください。

電源投入後起動が完了するまでしばらく時間がかかります。ディスプレイ上に初期画面が表示され、砂時計マークが矢印マークに変わるまで、キーボードやマウスには触らぬようにしてください。

もし、パスワード入力を催促する画面が出た場合は、パスワードを入力してください。

また、パソコンのユーザー選択画面が出た場合は、自分用のアイコンをクリックしてください。

砂時計マークや矢印マークをマウスポインターといいます。

ディスプレイ上の初期画面を、デスクトップといいます。

電源の切り方 (WINDOWSの終了)

画面左下の「スタート」ボタンをクリックし、メニューの下にある「Windows の終了」をクリックしてください。「Windows の終了」画面が表示されます。「電源を切れる状態にする」の左横の「」しるしに黒丸がついていることを確認してください。もし、他の部分に黒丸がある場合は、「電源を切れる状態にする」の左横の「」しるしをクリックし、黒丸をつけてください。その後、「OK」ボタンをクリックしてください。

パソコンは内部の終了手続きを行いしばらくすると、自動的に電源が切れます。

自動的に電源が切れないタイプのパソコンでは、「電源を切れる準備ができました」と表示されてから電源スイッチを押してください。

その後、周辺装置の電源を切ってください。

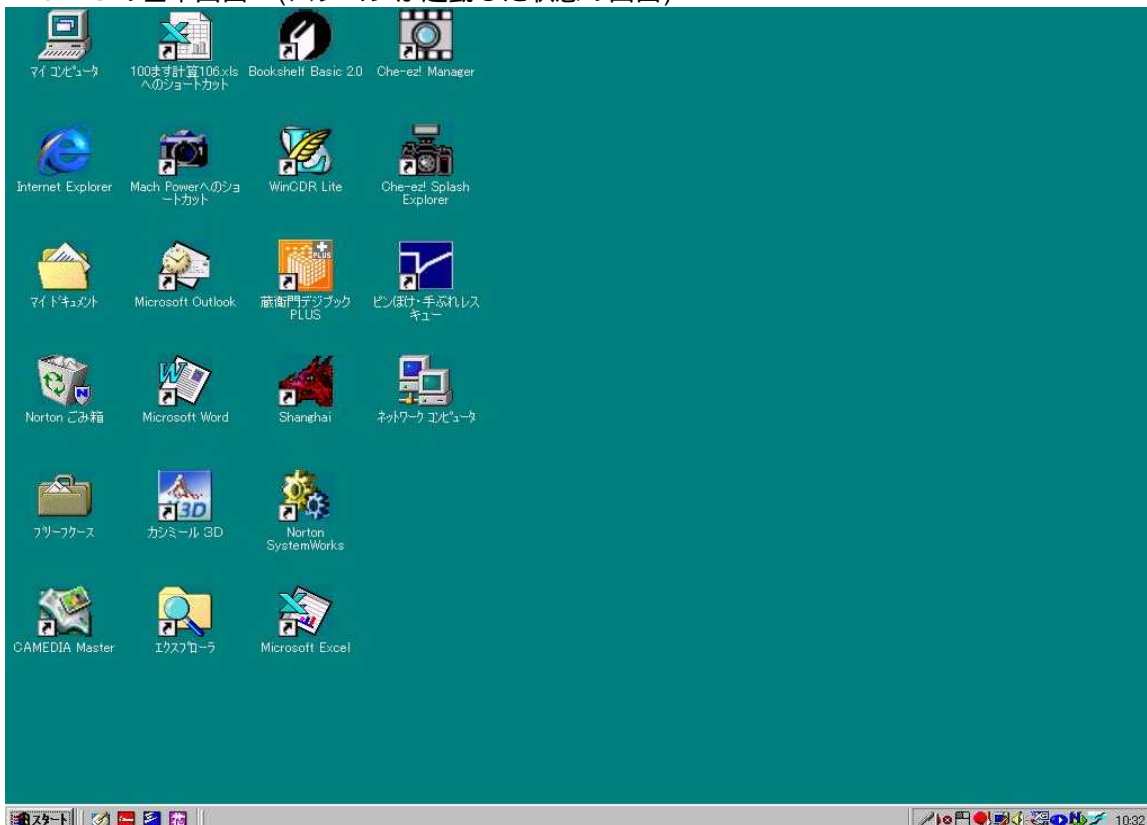
注意 Windows を正しく終了させないで、いきなり電源を切るとパソコンのトラブルの元になりますので、必ず、終了手順を守ってください。

それでは本格的に勉強です パソコンを起動しましょう！「マウス操作に慣れよう」

1 画面の説明

！画面の中を見まわしてみよう、大切な印(アイコン)、画面の下の方に！

WINDOWSの基本画面 (パソコンが起動した状態の画面)



- ・デスクトップ = ディスプレイの画面全体で、この上に各種ソフトの画面(ウインドウ)を開き、データの作成・編集等の作業を行います。
- ・アイコン = = = = いつも使うようなプログラムや文書などのデータファイル、それらを収めているフォルダなどを小さな絵で表したもので、そのアイコンをダブルクリックすることで、すばやくプログラムを起動させたり、データファイルに対応するプログラムで開いたりします。
- ・マウスポインタ = マウスの移動に対応して画面上を移動し、現在のマウスの位置を示します。
- ・スタートボタン = 画面の左下に有り、クリックすることでパソコンに登録されているプログラムを選択起動できるメニューを表示します。
- ・ツールバー = = = = 最もよく使うプログラムを登録し、クリックで起動できます。
- ・タスクバー = = = = 実行中のプログラム名がボタンの形で表示されます。
- ・タスクトレイ = = = = 時計や日本語変換辞書等、常に動いている(待機を含む)常駐プログラムが表示されます。
- ・メニューバー = = = = 一覧から「メニュー」をせんたくします。
- ・スクロールバー = ウィンドウの見えない部分を見るために使います
- ・最小化ボタン = = = = その画面をタスクバーに収納する
- ・最大化ボタン = = = = 小さいウィンドウを画面全体に広げます。
- (・元に戻すボタン = 最大化ウィンドウの状態から小さいウィンドウに戻す)
- ・閉じるボタン = = = = そのウィンドウを閉じ、プログラムを終了します。

2 マウスの使い方 !ポイント、クリック、ダブルクリック、ドラッグ、そして右クリック!



マウスの操作 ?マウスとは?

マウスはパソコンに対し各種の指示(命令)や情報を与える大変大切な入力装置です。マウスを自由に移動させることで、画面上に表示されているマウスポインタを移動させ、その移動量や移動方向と左右のボタン操作で、パソコンへ指示や情報を与えます。

マウスは、裏にあるボールの回転量と回転方向で、情報をパソコンに与えます。最近では光線を出しその反射光を移動量と移動方向に変換し、読み込むタイプのマウスも使われています。

マウスの操作には、「ポイント」「クリック」「ダブルクリック」「右クリック」「ドラッグ」があります。

マウスの持ち方

右の手のひらで軽く包み込むように持ち、人差し指を左ボタン、中指を右ボタンの上に軽く乗せます。このとき、ボタンを押し付けないように注意してください。

マウスの左側面を親指で、右側面を薬指と小指で軽く抑えます。

手首は浮かさず、軽く机の上を滑らすようにしながら、マウスを前後左右に移動させます。

手首を机に押し付けて、手首を中心に移動させると、直線的に左右へ移動させにくくなります(手首を中心にした弧を描いてしまいます)。また、前後の移動幅も少なくなってしまいます。

マウスの移動

マウスを移動し、マウスパッドからはみ出した場合には、一旦マウスを持ち上げてマウスパッドの中央部分へ置き直してください。マウスパッドからマウスが離れるので、その分の移動は無視されます。そこから、マウスの移動を継続してください。

通常は、コードの出ている側(ボタンの方)を前にして移動させます。水平に左右に移動させマウスポインタの移動を確かめてください。ポインタは水平に移動します。

マウスを左方向へ傾けた状態で、前と同様に水平に左右に移動させマウスポインタの移動を確かめてください。ポインタは斜めに移動してしまいます。

マウスの移動は、画面上のマウスポインタの移動を確かめながら、手や腕に力を入れることなく軽く操作してください。また、移動させるだけの操作のときに、どちらのボタンも押さないように気をつけてください。力むと、いつの間にか、知らぬうちにボタンを押してしまっていることがあります。

ポイント

マウスを移動させることで、画面上のマウスポインタを移動させ、操作の対象となる部分(アイコンや命令等)へ置く(合わせる)ことを言います。

クリック

メニューの選択、場所の選択や操作の実行をパソコンに指示する操作です。

マウスでマウスポインタを目的の位置にポイント(合わせ)し、マウスの左ボタンを1回押して離す操作です。押している時間が、短すぎたり長すぎると、パソコンはクリックとして認識しません。

ダブルクリック

アイコンから使おうとするソフト(プログラム)を起動するための操作です。

目的のアイコンをポイントし、マウスの左ボタンを素早く2回押して離します。

一回目と二回目のクリックの間隔が離れすぎると、パソコンはダブルクリックとして認識しません。

右クリック

ポイントしている画面に対応した良く使う作業を、簡単に表示し実行できるメニューをショートカットメニューといいます。そのショートカットメニューを表示させるために使います。

目的の画面(ウインドウ)をポイントし、マウスの右ボタンを1回押して離します。

ドラッグ

ウインドウを移動したり拡大や縮小するとき、ファイルの移動や複写、線を引いたり場所を選択するときに行う操作です。

操作の開始位置をポイントし、マウスの左ボタンを押したままマウスを移動させ、操作の終了点でボタンを離します。

ドロップ

ドラッグにより移動しているもの(ファイルや図形等)を、目的の場所まで移動させたら、左ボタンを離す操作で、ドラッグしてきてそこに置くとのことで、「ドラッグ・アンド・ドロップ」といいます。

マウスポインタ

マウスポインタの形は、ポイントする場所や実行している状態によりいろいろ変化します。

- ・ 上斜太矢印型 = 通常(基本的)のポインタ
- ・ 矢印付十字型 = ウィンドウを移動できる時(ドラッグで)
- ・ 左右矢印型 = 横方向へ拡大縮小ができる時(ドラッグで)
- ・ 上下矢印型 = 縦方向へ拡大縮小ができる時(ドラッグで)
- ・ 上下矢印斜型(左右) = 矢印方向へ拡大縮小ができる時(ドラッグで)
- ・ 砂時計型 = しばし待て表示。ソフトが動作中の状態で、マウス操作やキーボード操作を待機せよの表示
- ・ I の字型 = 文字の入力先を示す。クリックすると文字入力カーソルがそこへ移動します。
- ・ + 印型 = 図形や表の範囲を選択指定するとき
- ・ 指差型 = ホームページで別のページへ移動できる表示
- ・ に斜線の禁止型 = 操作禁止表示。その操作ができないときに表示されます。

注意 マウスや、キーボード操作は、決して力まずゆったりと行ってください。

つい緊張し、いつの間にか関係の無い部分を、無意識のまま押してしまっていることがあります。

気づかずにそのまま操作を継続してしまい、トラブルの原因になることがあります。

指先に力を入れ過ぎないようにしましょう！

マウスの操作練習

WINDOWSの基本画面(起動時画面 = デスクトップ)上でマウスを操作してみましょう。

まず、「移動」と「ポイント」の練習をしてください。ボタンを押さぬように注意してください。

もし、うっかり右ボタンを押してしまい、ショートカットメニューが表示されたなら、マウスを少し移動させ何も表示されていないところで1回だけクリックすると消えます。また、アイコンをポイントすると、少し時間を置いて説明が表示されることがあります。

さらに、うっかりアイコンをダブルクリックしてしまった場合は、そのアイコンの関係プログラムが起動しますので、あわてずに、新に開いたウインドウの右上部にある「x」印のついた赤いボタン(閉じるボタン)をクリックしてください。ウインドウが閉じ、プログラムが終了します。

ドラッグしそうなになったら、あわてずにマウスから手を離してください。

次に、「クリック」と「ダブルクリック」の練習を少し。ドラッグしないように注意してください。

画面上の「マイコンピュータ」アイコンをポイントしてください。落ち着いてクリックします。色が変わり説明が表示されます。

こんどは、そのままダブルクリックしてください。左上に「マイコンピュータ」と書かれたウインドウが開きます。今度は、そのウインドウの右上部にある「×」印のついた赤いボタン(閉じるボタン)をクリックしてください。ウインドウが消えます。

もうひとつやってみましょう。「Microsoft Word」と書かれたアイコンをダブルクリックしてください。WORD(ワード)というワープロソフトが起動します。が、ここではすぐ閉じて(終了)しますので、前と同様にそのウインドウの右上部にある「×」印のついた赤いボタン(閉じるボタン)をクリックしてください。ワードが終了します。

次は、「ドラッグ」の練習ですが、画面のアイコンが無い部分を使います。

何も表示されていない部分で、左ボタンを押しそのままゆっくりとマウスを移動させてください。

長方形が真っ直ぐな点線が表示されます。ボタンを離すとその線は消えます。

垂直な点線、水平な点線、長方形を確認しながら練習してください。

この練習では、決してアイコンをポイントしたり、アイコンを長方形の中に入れてないように気をつけてください。

3 試しに、データを作ってみよう

プログラムの起動

パソコンを使うということは、パソコンに登録されているさまざまなプログラム(ソフトウェア)を起動し、それを使うことです。

パソコンにはいろいろな機能を持ったプログラムが登録されており、さらに自分で使いたい機能のソフトを新たに登録することも出来ます。

使いたいプログラムを起動するにはデスクトップのアイコンをダブルクリックするか、そこに無い場合はスタートボタンから、メニューを表示させその中の目的プログラムをクリックして起動させます。

メモ帳の起動

それでは、Windowsに付属している、テキスト・エディター・プログラム「メモ帳」を使いキーボードの練習をしましょう。

プログラムを起動するためには、先ず画面の左下にある「スタート」ボタンをクリックします。

WINDOWSの基本的な機能のメニューが表示されます。マウスポインタを上へ移動して「プログラム」をポイントしてください。プログラムやプログラムのグループが表示されます。

マウスポインタを横に移動(青色の部分)させ、「アクセサリ」グループをポイントします。さらにアクセサリグループのプログラムが表示されるので、その中の「メモ帳」を探してください。

さらにマウスポインタを横に移動(青色の部分)し、「メモ帳」をクリックしてください。これで「メモ帳」が起動し、「メモ帳」の画面(ウインドウ)が開きます。

パソコンで扱う文字 キーボード入力の基礎

半角文字(1バイト文字)、文字の大きさが全角文字の半分

- ・英数字(アルファニューメリック) = ABCDEabcde1234567890
- ・カタカナ = アイエオカクケコ
- ・記号 = !#\$%&+*`´「」



全角文字(2バイト文字)、文字の大きさが半角の2文字分

- ・英数字(アルファニューメリック) = A B C D E a b c d e 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
- ・カタカナ = アイウエオカキクケコ
- ・ひらがな = あいうえおかきくけこば
- ・漢字 = 北海道小樽市東山中学校
- ・記号 = ! # \$ % = + * ° ` 「 」
- ・特殊記号 = 々々(キーボード上に無い記号)

全角文字は、キーボードを日本語入力状態(モード)に設定し入力し、確定という操作が必要です。

アルファベットや数字、記号だけで文書等を作成できる国では、それらだけを扱えるキーボードで足りません。しかし日本では、それらの他にひらがなや漢字も入力する必要があるため、日本語入力ツール(日本語辞書、日本語入力エンジン)が必要になります。

日本語入力ツール(IMEツール)は、常駐プログラムで改めて起動する必要はありません。しかしキーボードから日本語を入力するためには、IME日本語入力ツールの入力モードを、「直接入力」から「日本語入力」に設定しなければなりません。



画面(デスクトップ)上に、IMEツールバーがありますか?もし、表示されていない場合は、画面右下のタスクトレイの「赤ペン」アイコンをクリックし、そのメニューから「ツールバーを表示」をクリックしてください。画面のどこかにツールバーが表示されます。(まだ、日本語入力の状態ではありません。)

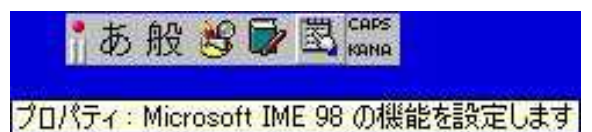
ツールバーは、ツールバーの左端をポイントすると十字矢印のポインターに変わり、ドラッグすることで移動できます。

キーボードの左奥側にある「半角/全角(漢字)」キーを押してください。IMEツールバーの「A」マークが「あ」マークに変わり、タスク

トレイの「赤ペン」アイコンが「紙と赤ペン」アイコンに変わり、日本語入力ができるようになりました。

「ローマ字入力」と「かな入力」

日本語を入力する方法には「ローマ字入力」と「かな入力」がありますが、キー配列を覚える数が少ない(指の移動幅が少ない)「ローマ字入力」を説明します。



ローマ字入力の設定

IMEツールバーの「プロパティ」アイコン(四角に指差しマーク)をクリックし、「Microsoft IME XX のプロパティ」の「全般」設定(全般タグをクリック)内の入力設定部「ローマ字入力/かな入力」の表示枠が「ローマ字入力」であることを確認してください。もし、「かな入力」の表示が出ている場合は、その表示枠の右にある下向き三角をクリックし、さらに、「ローマ字入力」をクリックしてください。最後に「OK」ボタンをクリックしてください。これで「ローマ」字入力に設定されます。





文字キーの説明

文字キーには2個から4個の文字又は記号が表示されています。キーの左側二つはローマ字入力時に入力され、右側二つはかな入力時に入力できます。また、上下に分けると、下側(手前)の二つはそのまま入力され、上側(奥)の二つは「Shift」シフトキーを押しながら、押したときに入力できます。

アルファベットのキーは、キーに表示されている文字の大文字にするか小文字にするかは、「Shift」シフトキーと「CapsLock」キャプスロックキーにより変わります。「CapsLock」キャプスロックキーが無効になっている場合は(キャプスロックランプが消灯)、そのまま押すとそのキーの小文字で扱われ、「Shift」シフトキーを押しながら押すと大文字として扱われます。逆に「CapsLock」キャプスロックキーが有効になっていれば(キャプスロックランプが点灯)、そのまま押すとそのキーの大文字が、「Shift」シフトキーを押しながら押すと小文字になります。

ローマ字入力と編集キーの操作練習を行ってみましょう。



IME ツールバーは出ておりますね、「半角/全角(漢字)」キーを押してください。ツールバーに「あ」が表示され日本語入力状態になりました。

「メモ帳」画面の左上に「|」印が点滅しています。これをカーソルと呼び、この部分に文字が入力されます。

まず、「Enter」エンターキーを2回押してください。「Enter」キーを押す度にカーソルが下へ落ちます。これは、改行として働きました。

手前にある横長のキー「スペースバー(スペースキー)」を3回押してください。カーソルが右へ移動しましたね、「スペース(空白)」を入力したことになります。

それでは、「おたるし」と入力しましょう。「OTARUSI」とキー

を押すごとに、ひらがなに変わります。しかし、青い色が付いています。「Enter」エンターキーを1回押してください。黒くなりましたね。この場合の「Enter」キーは、「確定」の意味があります。

注意 日本語入力の状態で文字を入力した場合、この「確定」操作を行わなければ、入力したデータとして扱われることはありません。たとえ、数字やアルファベットであってもです。

入力した文字が正しければ(それでよければ)、「Enter」キーを押して「確定」してください。

それでは、もう一度「Enter」キーを押してください。カーソルが下の行へ移動しました。今度は、「改行」です。

「Enter」キーも「スペースバー」も文字として表示されませんが、きちんとデータとして扱われております。

数字を入力してみましょう。「1 2 3 4 5 6 7 8 9 0」と打ち込んでください。青い文字でそのとおり表示されます。「Enter」キーを押して「確定」してください。もう一度「Enter」キーを押して「改行」してください。

続けて練習しましょう。入力後は忘れずに「確定」操作と「改行」操作を行ってください。

「ほっかいどう」と入力してください。「HOKKAIDOU」です。

「にっき」は「NIKKI」

小さい「っ」を入力する場合、子音のキーを2回押し、続けて母音のキーを押します。

「りょこうしゃ」は「RYOKOUSHA」

「しゃしょう」は「SYASHOU」です。入力しましたか。

「しゃ」は「SHA」「SYA」どちらも使えます。

漢字変換

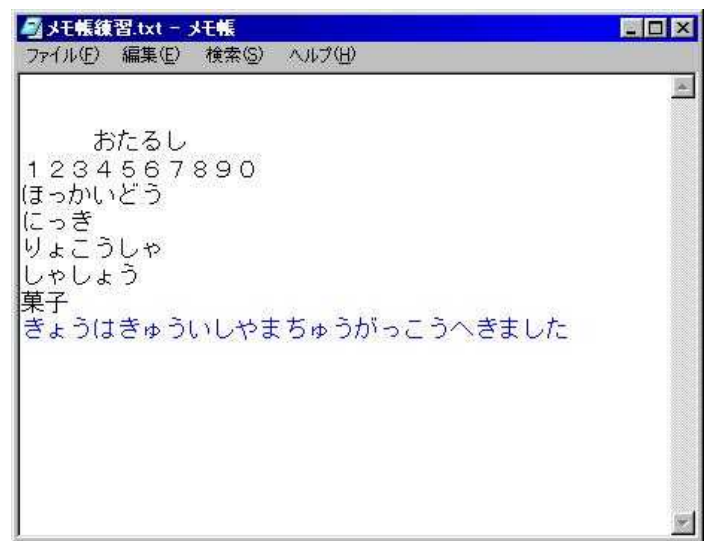
それでは、「かし(KASI)」と押してから(まだ「確定」しないでください)、「スペースバー」を1回押してください。「かし」と読める漢字に変わりました。

もう一度「スペースバー」を押してください。「かし」と読める漢字のリストが表示されます。

右下に「2/何」のように、分数の分母で候補の総数が表示されます。

「スペースバー」を押すごとに候補漢字が下へずれて行きますが、候補総数が多く表示されていて、リストに目的の文字が無い場合は、「スペースバー」の右横の「変換」キーを押すとリストごとが変わります。

目的の文字が出たら横の番号を押してください。今回は「菓子」を選び、確定し改行してください。



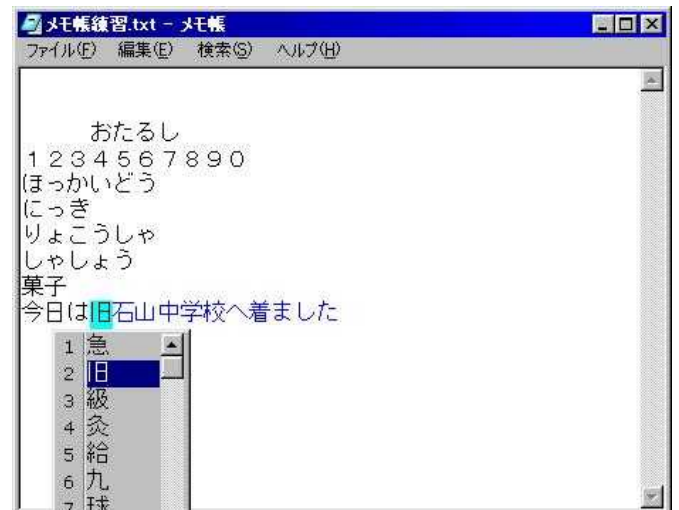
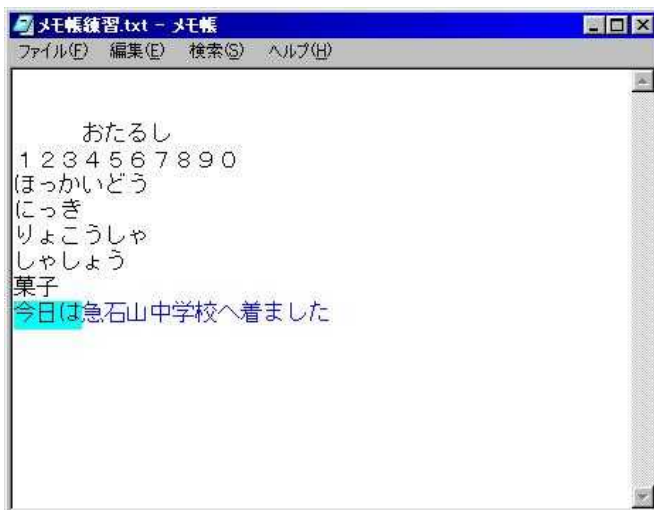
今度は長いです「今日は旧石山中学校へ来ました」(石山を東山に修正予定)連続して入力してください。

(きょうはきゅういしやまちゅうがっこうへきました)

(KYOUHAKYUUISIYAMACHUUGAKKOUHEKIMASITA)

全て打ち込んだなら、正しいか確認してから「スペースバー」を一回押してください。

左側の文字列が青くマスクがかかっております。



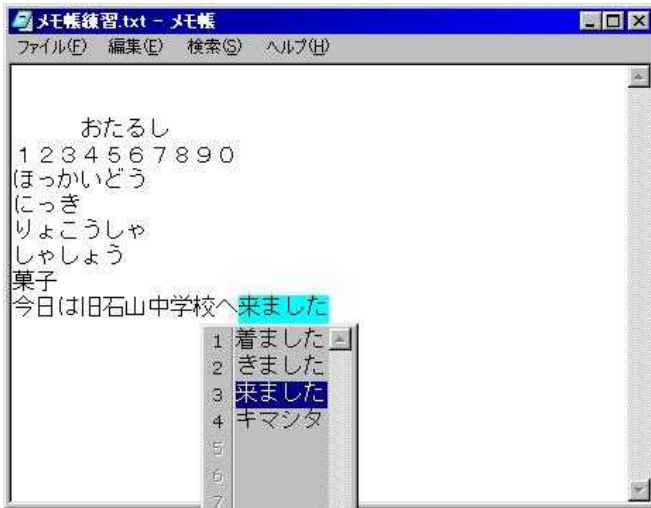
この部分の変換が正しければ「」下向矢印キーを一回押してください。「今日は」が確定され「青マスク」は右に移動します。そこが正しければ同様に「」キーで確定してください。

もし目的の漢字が出ていない場合は「スペース」を押して、目的の文字を出し「」キーで確定してください。

残りの未確定部分全てが正しければ「Enter」キーを押して、その残り全てを「確定」します。

もし、さらに右側に正しくない部分が残っている場合はそこまで「」で確定を続けその正しくない部分に「青マスク」をかけ、「スペース」で目的の文字に変換し確定してください。

全て正しく変換できたなら、改行してください。



最後に、「パソコン」はどうでしょうか。「ばそこん (PASOKONN)」です。

「ん」の文字は「NN」と二回「N」をはたきます。「ばそこん」と青文字で表示されたなら、キーボードの奥の方にある「F7」キーを押してください。青マスクで「パソコン」に変わりました。確定し、改行してください。

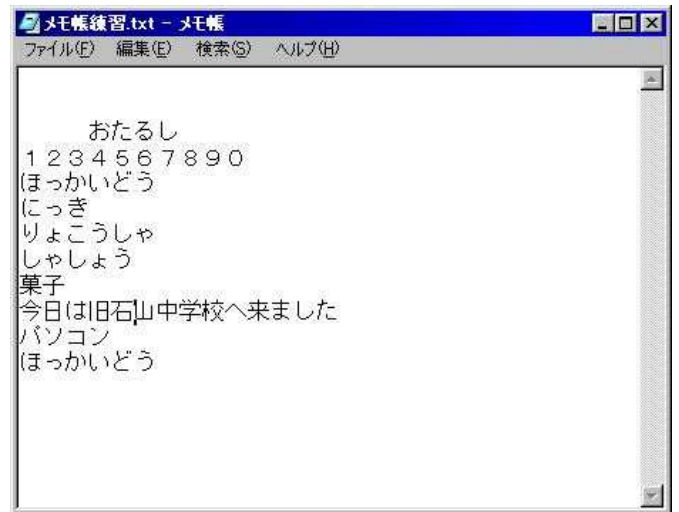
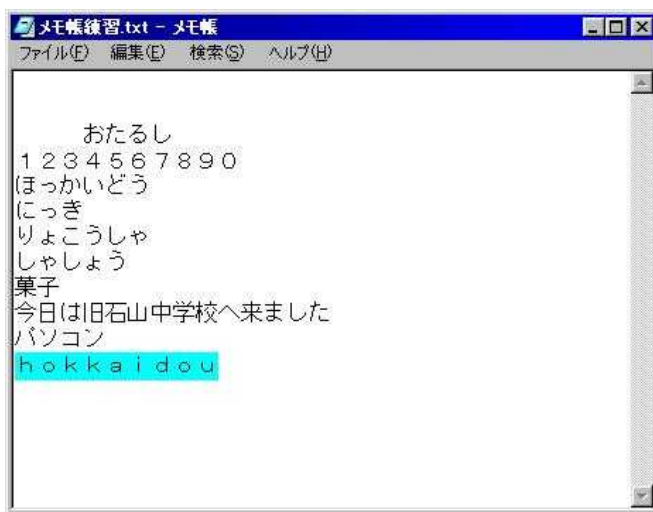
おまけです、「ほっかいどう (HOKKAIDOU)」と打ち込んだなら、「F8」キーを一回押してください。

青マスク状態の半角カタカナで「ホカイドウ」に、つづけて「F9」キーを押してください。やはり青マスク状態の「hokkaidou」に、もう一度「F8」キーを押すと「hokkaidou」へ、さらに、続けて「F6」キーはどうでしょうか、押してみてください。

「ほっかいどう」ですね。

これで、確定してください。さらに改行してください。

この様に「F6」ひらがな、「F7」カタカナ、「F8」半角、「F9」英数全角、等の特別な機能を持っています。

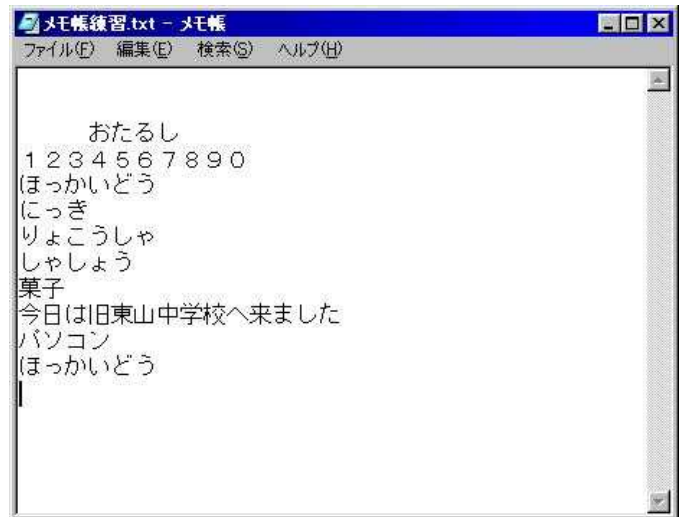
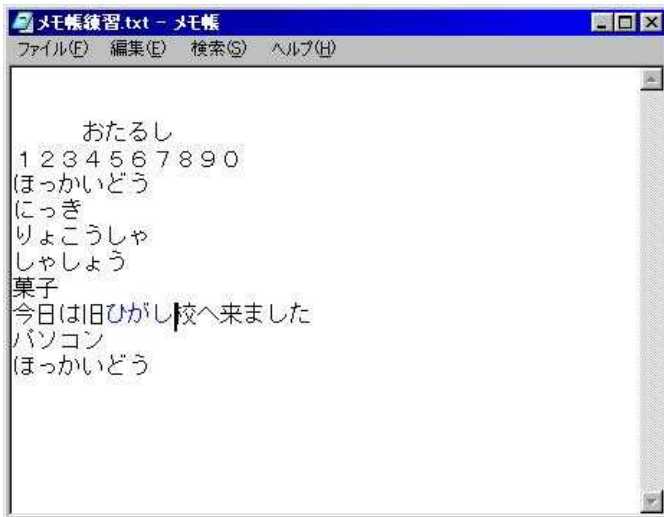


入力した文字の編集

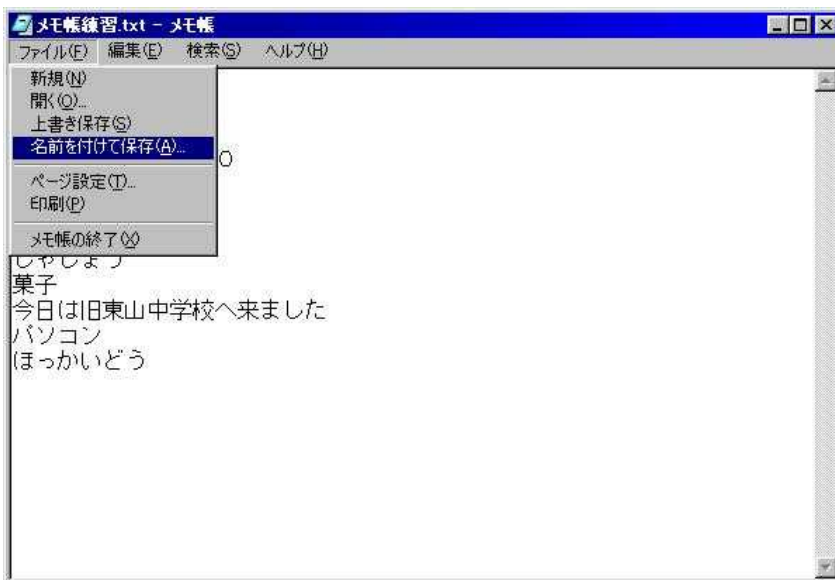
先ほど間違っ入力してしまった、「石山」を「東山」に修正します。

キーボードの右側に「」「」「」「」のキーがあります。これらは「カーサームーブキー」あるいは「カーソルムーブキー」で、「|」の文字入力カーソルを矢印方向へ移動させます。

このキーを使い文字入力カーソルを、先ほど入力した「旧石山中学校」部分の「石」と「山」の間へ「石|山」のように移動させてください。「BackSpace」キーを一回押すと「石」の文字が消えます。



その状態で「ひがし(HIGASI)」と打ち込み、「スペース」を押し「東」になったら確定してください。確定できたら「」キーでカーソルを下まで下ろしましょう。
「石山中学」から「東山中学」に修正できました。



文字の編集には、これらのキーの他に「Del」キーも使います。このキーは、カーソルのすぐ後ろの文字を消します。

ファイルの保存

{ファイル名を「abc.txt」に}
これまで練習したものを、保存します。コマンドラインの「ファイル」をクリックして、さらに、「名前を付けて保存」をクリックしてください。「名前を付けて保存」のウィンドウが開きます。

上部の「保存する場所」は「My Documents/マイドキュメント」、下方の「ファイル名」は青く「*.txt」になっております。



「*.txt」の右側をクリックすると、「*.txt」のすぐ右側に縦線のカーソルが点滅します。

「」キーを使い「|.txt」のように「*」の左側へカーソルを置き「Del」キーを1回押し「*」を消します。「|.txt」

「abc」とキーボードから入力してください。「abc.txt」と表示されます。

「保存」ボタンをクリックしてください。

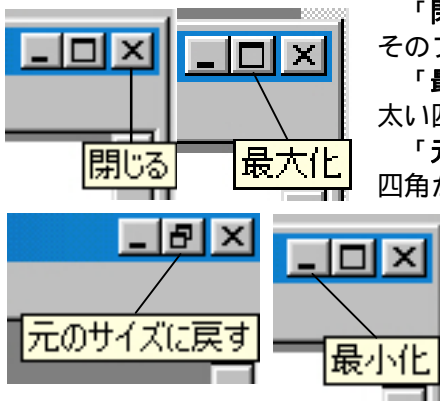
これで、今の練習データは「abc.txt」というファイル名で、「マイドキュメント」という場所に保存されました。

作ったデータを保存したので、「メモ帳」を終了します。

右上部の「閉じるボタン」をクリックするか、左上の「ファイル」をクリックし「メモ帳の終了」をクリックしてください。「メモ帳」ウィンドウが消えプログラムが終了します。



画面(ウィンドウ)の説明



「閉じるボタン」 = ウィンドウの右上隅の「x」印のボタン。クリックするとそのプログラムが終了しウィンドウが閉じます。

「最大化ボタン」 = ウィンドウの右上隅に3個あるうち真ん中のボタンで上が太い四角印が一つ。ウィンドウを画面いっぱいに広げます。

「元のサイズに戻す」 = ウィンドウの右上隅に3個あるうち真ん中のボタンで四角が重なった印。画面いっぱいのウィンドウを小さくし、さらにその大きさを自由に調整できるようにします。

「最小化ボタン」 = ウィンドウの右上隅に3個あるうち左側の下部に小さな横棒のボタンです。クリックで画面を閉じて(プログラムは終了しない)アイコンをタスクバーに表示するだけになります。元に戻すには、タスクバーのプログラムアイコンのあるボタンをクリックします。

「タイトルバー」 = 一番上の青色部分が「タイトルバー」で、プログラム名とデータ名が表示されます。ウィンドウが小さいとき(全画面表示でないとき)は、タイトルバーをドラッグするとウィンドウを移動できます。

左右の「境界線」 = ドラッグすることでウィンドウの幅を自由に拡大縮小できます。

上下の「境界線」 = ドラッグすることでウィンドウの高さを自由に拡大縮小できます。

上下左右の「角」 = ドラッグすることでウィンドウの幅と高さを、同時に自由に拡大縮小できます。

縦横の「スクロールバー」 = そのプログラムの有効画面範囲(スペース)が、実際の画面(ウィンドウ)より大きい場合、右側に縦スクロールバー、下に横スクロールバーが表示されます。そのボタンをドラッグしたり、矢印ボタンをクリックすることで、有効範囲(スペース)を移動することができます。

4 コピー&ペースト(コピー アンド ペースト)(コピーペースト)(コピペ)

WINDOWSには、編集用に大変便利な機能を備えております。

「カット(切り取り)」、「コピー(複写)」、「ペースト(貼り付け)」の機能で、メモリー上に特別な記憶部分(クリップボードと言います)を持ち、使用中のソフトの中で、また別のソフト間での、文字データだけでなく画像データ等のデータ受け渡しに使われます。この操作を、「コピー アンド ペースト」、略して「コピペ」と言われることもあります。

カット(切り取り) = 選択範囲を切り取り、それをクリップボードに保存します。(切り取られた部分には、元のデータは残りません。削除されてしまいます。)

コピー(複写) = 選択範囲を複写し、そのコピーデータをクリップボードに保存します。(複写した部分の、元のデータは残っています。削除されることはありません。)

ペースト(貼り付け) = クリップボードに保存されたデータを、今編集中的数据の指定された場所へ、貼り付けます(書き込みます)。

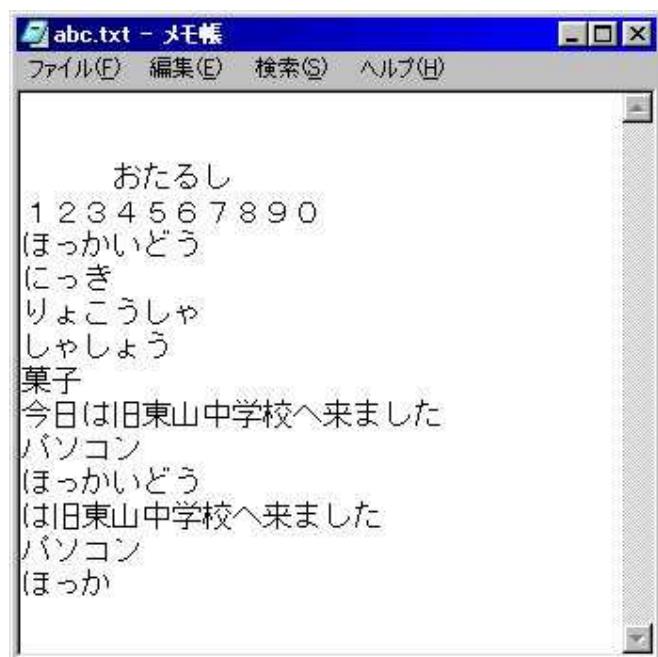
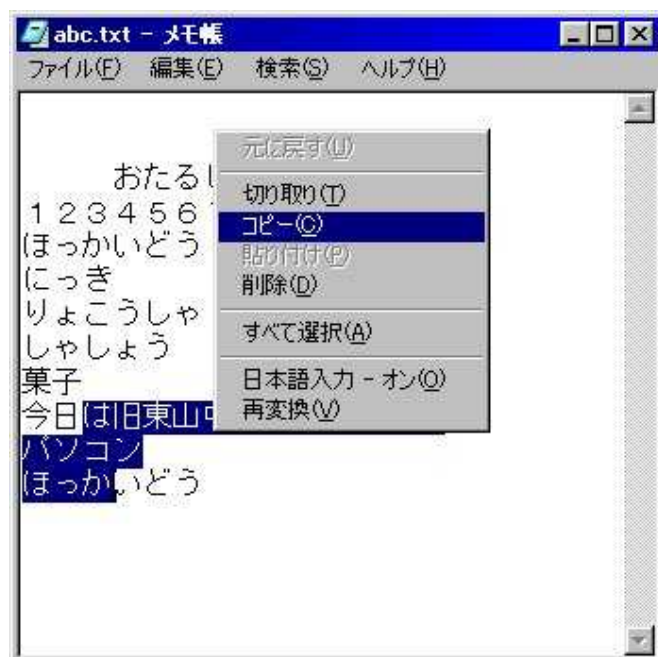
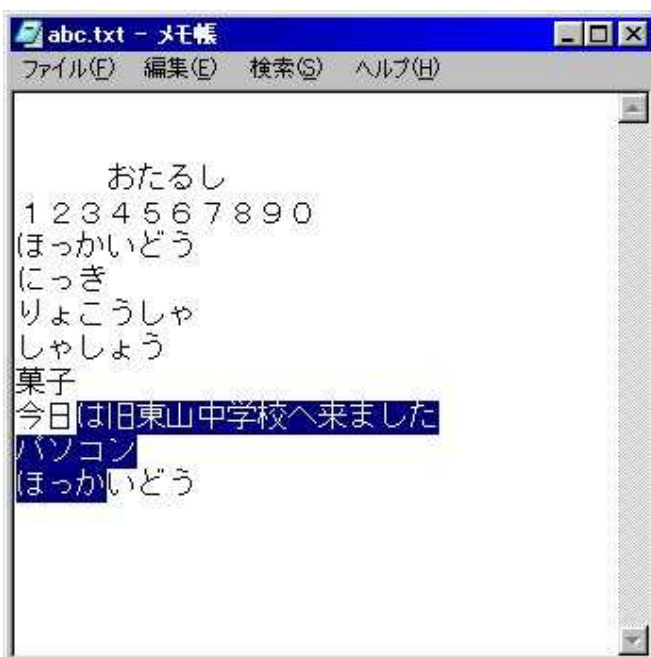
「**選択**」とは、何らかの作業対象として、編集している画面上のデータ(文字列、画像等)の一部を指定することです。

クリップボードに保存されたデータは、次のコピーやカットの作業が行われるまで、また、電源が切られるまで残っております。



コピー&ペーストの練習
 先ほど保存した「メモ帳」のデータ、ファイル名「abc.txt」を読み出して、コピー&ペーストの練習をします。
 「メモ帳」を起動してください。左上の「ファイル」コマンドをクリックし、サブメニューの「開く」をクリックしてください。
 開くウィンドウ内に「abc.txt」がありますね、それをクリックしてください。ファイル名入力窓に「abc.txt」が表示されるので、「開く」ボタンをク

リックしてください。先ほど保存(セーブ)したメモ帳データが表示されます。



コピー&ペースト作業の対象が文字列の場合は、作業対象文字列の左側にカーソルを置き、「Shift」キーを押しながら「」等カーサームーブキーを押して、作業対象文字列の右側まで移動させます。選択された部分はマスクがかかり反転表示されます。その部分を選択範囲と言います。

文字列を選択したら、現在作業中の画面上で、右クリックをしてください。サブメニューの中の「コピー」をクリックし(クリップボードに保存します)、カーソルをコピー先対象部に(別ソフトへのコピーならばその画面の)移動させます。

同様に右クリックから、サブメニューの「貼り付け」をクリックしてください。カーソルから右側にクリップボードから文字列がコピーされます。(この文字列は、確定済みです。)

今練習したデータを、別の名前で保存しましょう。

左上の「ファイル」コマンドをクリックし、サブメニューから「名前を付けて保存」をクリック、「名前を付けて保存」のサブウィンドウの「ファイル名」の枠には、青マスクで「abc.txt」と書かれているので、「」キーを4回押してから、「de」を追加し「abcde.txt」に変更してから「保存」ボタンを押します。

これで、コピーペーストの練習をしたデータは「abcde.txt」とファイル名が付けられ、元のファイル「abc.txt」とは別に保存されました。

もし、「上書き保存」をクリックすると、元のデータと置き換えで保存されます。ファイル名も同じなので、元のデータは無くなってしまいます。

5 さっきのデータは何処にあるの? ! ! ! 特に大切なことなのです ! ! !

! ハードディスク、フォルダ、フォルダの名前!

デスクトップの中から、「マイドキュメント」のアイコンをダブルクリックしてください。「マイドキュメント」フォルダ内の格納状況を表示するウィンドウが開きます。その中に「abc.txt」が格納されています。

「マイドキュメント」のフォルダは、デスクトップ上に表示されてましたが、実際はハードディスクの、あるフォルダの中にあるのです。それを、利用者がすぐに使いやすいように、デスクトップ上に表示するように設定されているからです。



パソコンに慣れ、仕組みがある程度理解できるまでは、「マイドキュメント」にデータを保存しましょう。

ファイルとフォルダ

メモ帳で作ったデータは、「ファイル」というまとまりで扱われ、それにファイル名をつけ、ハードディスク(HDD)やフロッピーディスク(FDD)に保存(記憶)します。

記憶されたデータファイルは、電源を切っても消えることはありません。

作ったデータだけでなく、OSも各種アプリケーションプログラムもすべて「ファイル」という形で記憶され、扱われております。

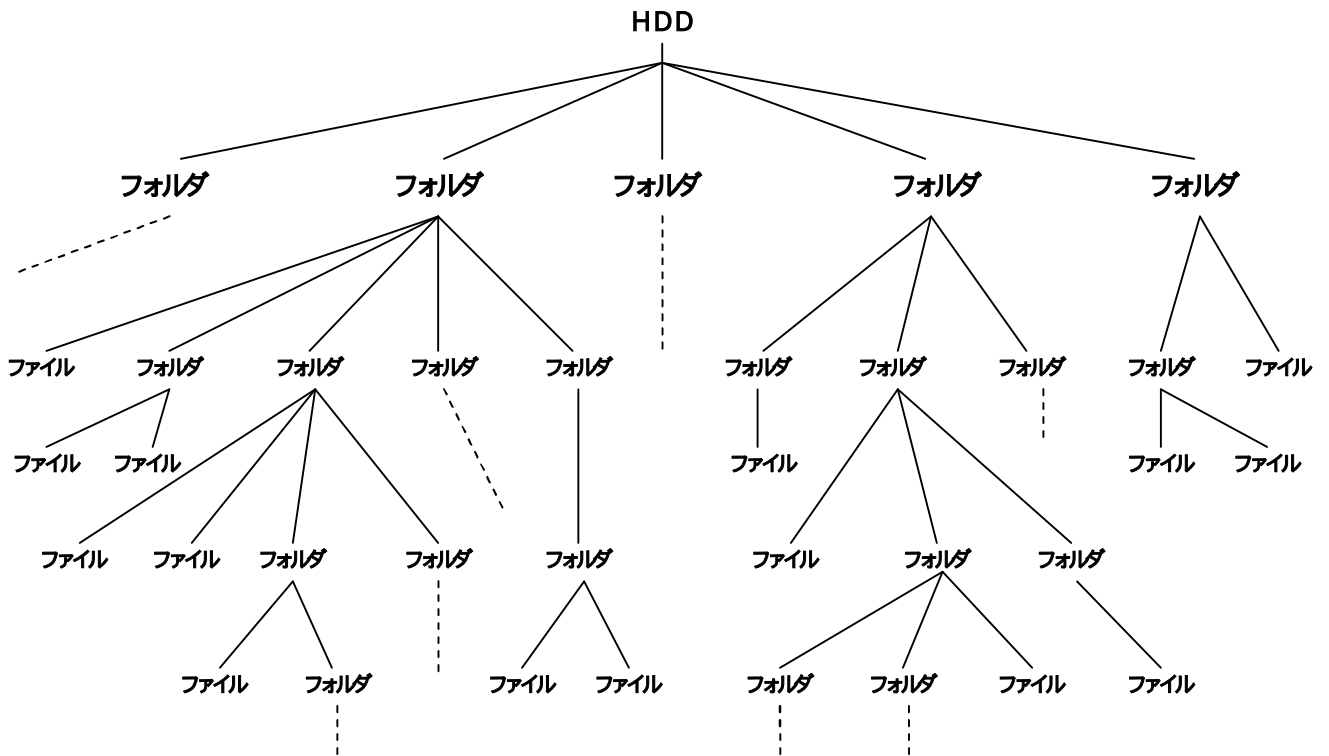
すべてのファイルを同一の保存場所に書き込んで良いのですが、膨大な数のファイルになり、管理が煩雑になるので、グループ分けをして、さらに階層構造を構成し、使いやすくします。

グループ分けをしたファイル等を、一まとめで格納する場所を、**フォルダ**と言います。

フォルダの中には、ファイルはもちろんフォルダも入れることができます。フォルダにもファイルと同様にフォルダ名を付けます。

階層構造とは、フォルダの下(中)に、いくつかのファイルやフォルダがあり、そのフォルダの下(中)に、さらにいくつかのファイルやフォルダがあり、そのフォルダの下(中)にも、さらにさらに、いくつかのファイルやフォルダがある、と言うような構造を言います。

階層構造の図



データやプログラムの名前（ファイル名）

もし、あなたが何かのデータを作ったら、そのデータに名前をつけてください。当然ですが、あなたが作ったワープロの文書データにも、表計算のデータにも、画像や写真(パソコンに読み込むときに付きますが)のデータにも、上達しプログラムを作ったときも、自由にあなたの好きな名前を付けることができます。**ファイル名やフォルダ名を付ける場合には、そのファイルはどんなデータなのか、このフォルダはどのようなグループのデータが入っているのか、後から分かりやすい名前を付けると良いでしょう。**

しかし、ファイル名やフォルダ名をつける場合には、少し制限があります。

まず、同一のフォルダの中では、同じ名前のファイルやフォルダを作ることはできません。

ファイル名とおなじフォルダ名を付けることは可能です。

ファイル名の長さは、半角で 255 文字以内です。全角では 127 文字以内

スペースも使用できますが「¥、/、:、*、?、"、<、>、|」の各記号は使用できません。

フォルダって自分で作ってもいいの？

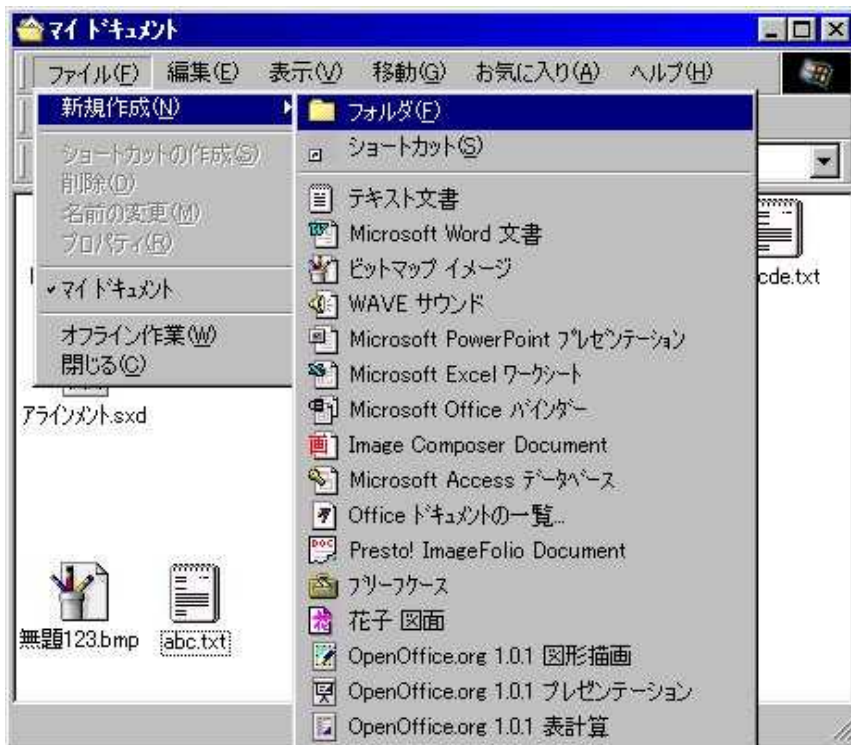
パソコンをいろいろと使っていくうちに、たくさんのデータファイルが出来てきますね。

それらを整理し管理するために、フォルダを有効に活用してください。

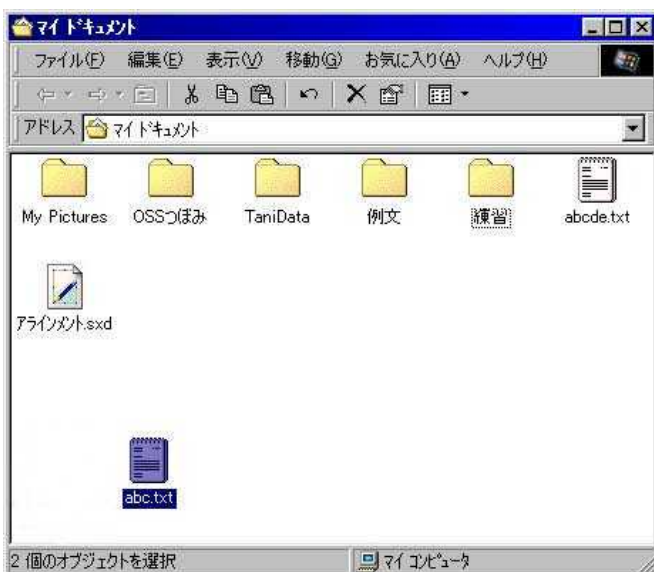
同じ系統のデータを集めるとか、同じ年次のデータを収めるとか、目的別に作るとか、フォルダの下にフォルダを作るとか、とにかく自由につくり、有効に活用しながら、作ったたくさんのデータを上手く管理してください。

フォルダの作り方は、キャビネット(HDD)の中に、引き出し(上位階層フォルダ)を作り、仕切り(中位階層フォルダ)を作り、さらにバインダー(下位階層フォルダ)を置き、その中に書類(ファイル)を収める気持ちで大分類、中分類そして小分類、そのような雰囲気を連想してください。

ただし、フォルダの階層をあまり深く作ると、取り出す(データを読み出す)のに、手間がかかってしまいます。



フォルダを作ってみましょう
 練習は「マイドキュメント」フォルダの中でおこないましょう。
 「マイドキュメント」のアイコンをダブルクリックしてください。「マイドキュメント」フォルダが開きます。
 「ファイル」コマンドをクリックし、メニューから「新規作成」をポイント、さらに「フォルダ」をクリックしてください。
 この操作は、「マイドキュメント」フォルダの空白部を、右クリックすることでも、同様にできます。
 青いマスクがけの「新しいフォルダ」と書かれたアイコンが作られます。青いマスクがけの「新しいフォルダ」と書かれた部分は、そのまま入力状態になっておりますので、フォルダ名を考えて入力してください。今は、「練習」にしました。
 練習と入力し、確定してください。さらに「Enter」です。
 「練習」フォルダができました。



データファイルの複写を作ってみよう!
 ファイルやフォルダの複写(コピー)を作成する方法にはいろいろありますが、ここではドラッグによる方法を使います。
 「abc.txt」アイコンをクリックしてください。青くなります。いよいよコピーですよ、必ず「Ctrl」キーを押しながら、選択したアイコンを、「練習」フォルダまでドラッグし、「練習」フォルダアイコンの上で右ボタンから指を離してください。(ドラッグ&ドロップ) このとき、もし、「Ctrl」キーを押さないと、ドラッグするとコピー作成ではなく移動作業になります。すなわち、ファイルの移動です。
 ファイルのコピーや移動は、前に練習した「コピーアンドペースト」機能を使っても出来ます。
 コピーが出来たか確認してみましょう。「練習」フォルダアイコンをダブルクリックし確認してください。



データファイルの名前を変えてみよう！

ファイル名を別の名前に変えるには、変更するアイコンを右クリックし、ショートカットメニューの、「名前の変更」をクリックすることで出来ます。新たな名前を書き込んだら、確定の後「Enter」キーを押してください。

データファイルを消してみましよう！(削除)

不要なフォルダやファイルを、消すこと(削除)ができます。不要なファイルのアイコンをクリックし選択状態にし、「Del」キーを押します。確認画面が出ますので「はい」ボタンを押すと消えてしまいます。

消したデータは何処へ行ったの？

消した(削除した)ファイルは、どこへ行ったのでしょうか？、もう無くなってしまったのでしょうか？ ディスクトップを良く見てみましょう。「ゴミ箱」アイコンがあります。

実は「ゴミ箱」も、フォルダの一種で(特殊な機能付き)、削除した(上書き保存で消えてしまった元のファイルは該当しません)ものは、この中に保存されております。

ダブルクリックすることで、中身を見ることができ、元の場所(フォルダ)に戻すことも、HDD上から完全に削除してしまうこともできます。

削除ファイルの復旧 (簡単に！ ごめんなさい！)

「ゴミ箱」アイコンをダブルクリック、ゴミ箱ウィンドウの中から復旧させたいファイルを探します。復旧させるアイコンを右クリックで、ショートカットメニューから「元に戻す」をクリックします。

「ゴミ箱」内の全てのファイル類を完全削除(完全に無くなります)

「ゴミ箱」アイコンを右クリック、ショートカットメニューの「ゴミ箱を空にする」をクリックする。



6 パソコンを自分が使いやすいように！

(カスタマイズ)

パソコンを買った状態のまま使うのも良いのですが、そのうちに何かと不満が出てきます。マウスポインターの動きが早すぎるとか、アイコンが小さく、ダブルクリックするとアイコンからずれてしまっていたなどと。

このような状態を、自分に合わせてパソコンを使い易くすることができます。

スタートメニューの大きさの変更

スタートメニューを大きく設定すると、アイコンや説明が少し大きく見易くなります。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」をポイント、メニューから「タスクバーと[スタート]メニュー」をクリックしてください。

タスクバーのプロパティウィンドウが表示されるので「タスクバーオプション」の「[スタート]メニューに小さいアイコンを表示」の左側に付いているチェックをはずし(チェックがあったらクリックします)、「適用」ボタンをクリック、「OK」ボタンで閉じます。

次は「コントロールパネル」を使い設定をおこないましょう。

「コントロールパネル」は、パソコンのさまざまな設定をおこなうところです。



「コントロールパネル」の表示

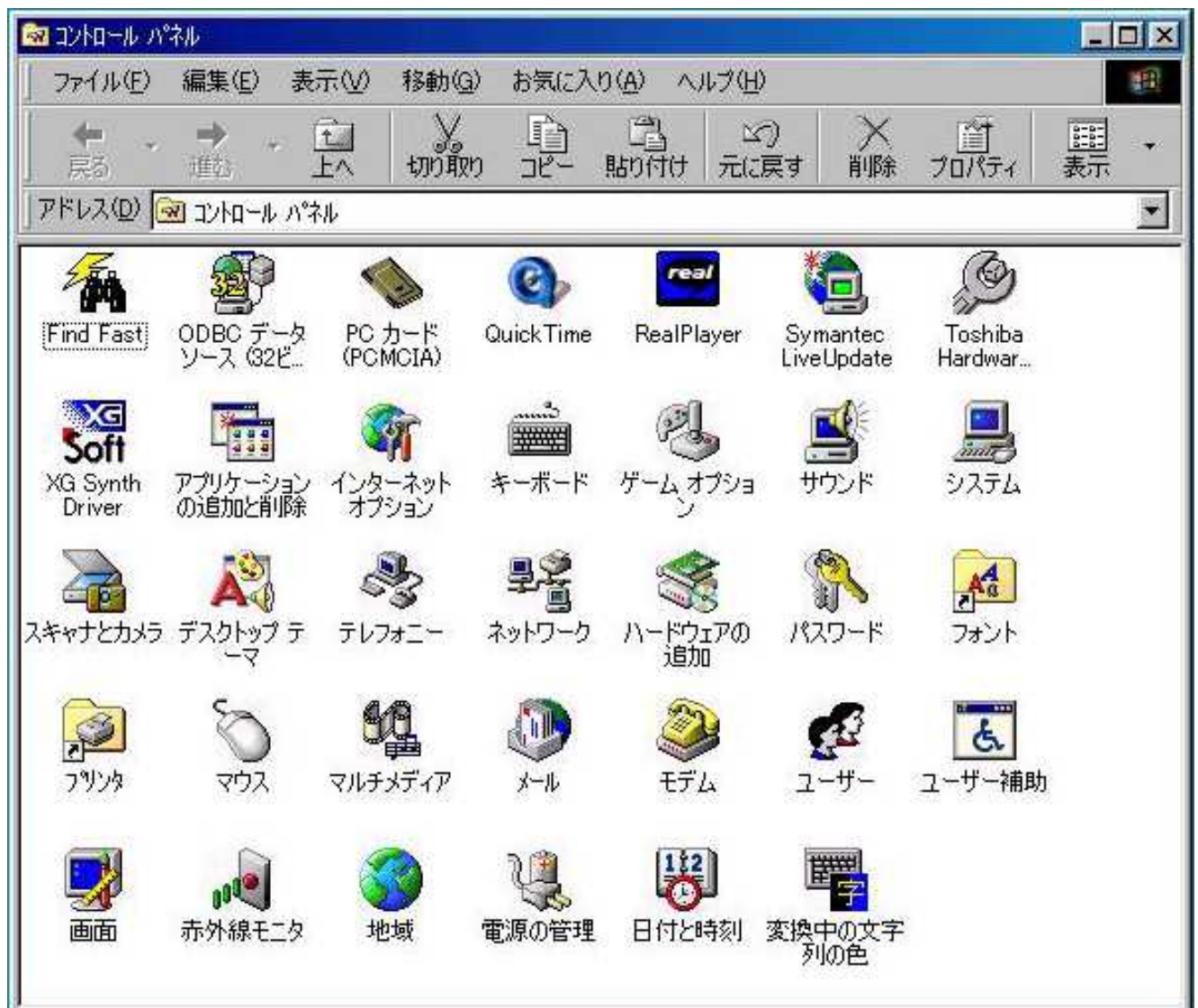
「スタート」ボタンをクリックし、「設定」をポイント、メニューから「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。この表示内容は、Windows パソコンに共通なものと、そのパソコン固有のもの(登録してあるプログラムの違い)とが、一緒に表示されています。

ここでは、「マウス」と、「画面」について説明します。

しかし、ここに表示されているそれぞれのアイコンは、あなたのパソコンの大変重要なことの設定をおこなっているものもありますので、十分に注意し、もし目的以外のウィンドウが開いてしまったら、「閉じる」ボタンが「キャンセル」「いいえ」などを使って閉じてください。

間違っても「OK」「はい」などは押さない(クリックしない)ようにしてください。





マウスの設定

「マウス」アイコンをダブルクリックします。「マウスのプロパティ」画面が開きます。

マウスポインタの変更

「ポインタ」タグの「デザイン」の下向き三角をクリックすると、マウスポインタの種類リストが出るので、どれかをクリックするとそのサンプル像が表示されます。それで良ければ「適用」ボタンを押します。

動作タグでの設定

「カーソルの速度と加速」で、マウスポインタの移動速度を設定できます。

「カーソルの軌跡」では、マウスポインタを移動させたその後に軌跡を残す(すぐ消えますが)かどうかの設定ができます。設定するとポインタがどこを移動しているか認識しやすいかもしれません。

「ボタン」タグでは、ダブルクリックの速さの設定、右ボタンと左ボタンの機能の入れ替えができます。



画面の設定

「画面」アイコンをダブルクリックします。「画面のプロパティ」が開きます。「画面のプロパティ」は、デスクトップのアイコンの無いところで右クリックし、ショートカットメニューのプロパティをクリックすることでも開きます。

背景タグ

デスクトップの背景の画像(壁紙といいますが)を設定できます。タグの壁紙参照窓で選択を確認し「適用」ボタンで、その壁紙が使われます。

・自分で撮影したデジカメ写真を壁紙に使うこともできます。ただし事前に写真を適切な大きさにリサイズしておく必要があります。

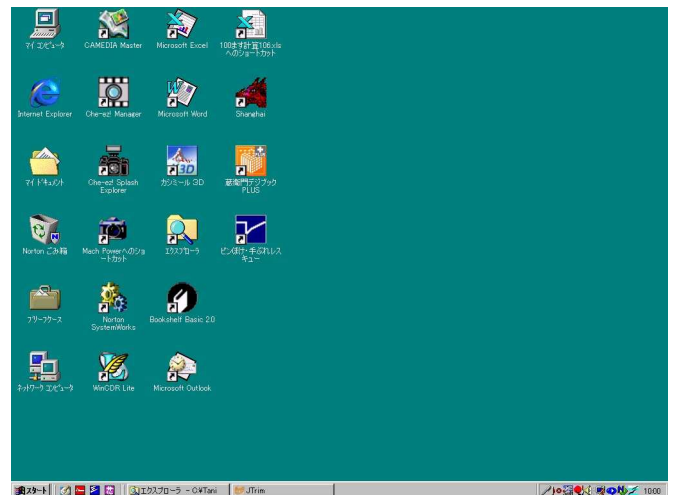
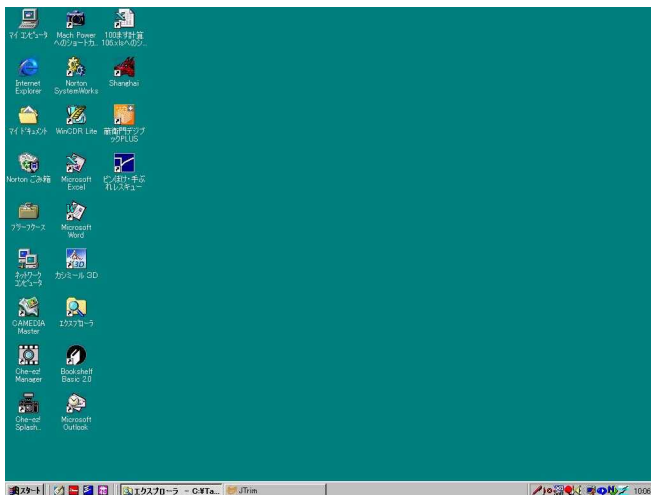
プロパティの背景タグの壁紙リストの右側にある、「参照」ボタンをクリックすることで、参照ウィンドウから壁紙に使用とする写真を選択し、開くボタンをクリックします。背景タグのモニタ画面に表示されるので、「適用」ボタンで設定されます。

「OK」ボタンで終わります。

スクリーンセーバー

これはブラウン管のディスプレイを使っているときに必要であった、ブラウン管の焼付き防止機能で、液晶ディスプレイにおいては、必ずしも設定する必要はありません。

パソコンの使用をしばらく中断したとき、設定した時間経過後に、指定した図形が画面の中を動き回るようにします。自分で指定した短文メッセージが画面内を移動するように設定することもできます。



目的のソフトがどのフォルダに格納されているのか、
 ます。

効果タグ

デスクトップのアイコンを大きな表示にすることができます。

デスクトップアイコンの設定

デスクトップに表示されているアイコンは、ダブルクリックすることで目的のソフトやデータをすぐに使えるようにするためのもので、ショートカットアイコンとも言います。

使うことが無いアイコンは削除し、頻繁に使うソフトやデータをアイコンとして表示させることができます。

アイコンの削除

不要なアイコンを右クリックし、ショートカットメニューの削除をクリック、確認ウィンドウで「はい」ボタンをクリックします。

そのアイコンは消え「ごみ箱」へ入ります。

アイコンの追加

ソフト(プログラム)のアイコンの追加は少し難しく、目
 どのようなファイル名なのかを理解している必要があります。

しかし、自分で作り、頻繁に使っているデータ、もしくはそれを格納(保存)しているフォルダをアイコンにしてデスクトップに置くことは、比較的簡単にできます。
ここでは、「マイドキュメント」に保存されていることとして、説明します。

データ(ファイル・フォルダ)アイコンの追加

「マイドキュメント」を開き、目的のファイルもしくはフォルダを表示させます。それを右クリックします。メニューの「ショートカットの作成」をクリックします。表示されているフォルダの中に「…へのショートカット」と名前が付いたアイコンが作成されるので、そのアイコンをデスクトップへドラッグ・アンド・ドロップしてください。

アイコンの名前の変更

「…へのショートカット」という名前を変更したければ、そのアイコンの右クリックから「名前の変更」でできます。

ソフト(プログラム)のアイコンの追加も同様方法でできます。

これらの他にもさまざまな設定ができますが、パソコンの操作に慣れてから、ヘルプやマニュアル、市販の参考書を使ってください。

パソコンの設定はいろいろあるので、極一般的なものだけにしました。もし、このようにすることが出来ないのだろうか?、こうなったらもっと使いやすいのでは? などと考え、調べてみてうまく見つからないとき、理解しにくいときには、先輩に相談してみてください。うまく設定できることがあるかもしれません。

記号の名前(呼び方) = イコールでつないでいます。

!	= エクスクラメーションマーク(感嘆符)	" "	= ダブルクォーテーションマーク(引用符)						
#	= ハッシュマーク(シャープ、いげた)	\$	= ドルマーク	%	= パーセント				
&	= アンパサンド	' '	= シングルクォーテーションマーク(引用符)	' '	= アポストロフィー				
()	= 開き、閉じ丸括弧	-	= マイナス、ハイフン	~	= チルダ	^	= キャロット、ハット		
	= パイプライン	¥	= 円マーク	`	= バッククォート	@	= アットマーク		
{ }	= 開き、閉じ中括弧	[]	= 開き、閉じ大括弧	+	= プラス	;	= セミコロン		
* *	= アスタリスク	:	= コロン	<	= 小なり	>	= 大なり	,	= カンマ
.	= ピリオド	?	= クエスチョンマーク(疑問符)	/	= スラッシュ(斜線)				
_	= アンダーバー								

それでは、おしまい 「簡単なパソコンセキュリティ」

1 パソコンって壊れないの？

パソコンは通常の状態、普通に使っていて壊れることはありません？。が、最新の電子技術、精密機器加工組立技術、ソフトウェア技術の結晶であり、大変デリケートな装置なのです。

パソコンは始めに説明したとおりハード類とソフト類の集合体で、ハード類は物理的に強い衝撃や高電圧、高温を与えないかぎり、結構丈夫で壊れにくい物なのです。

しかし、可動部がある装置(HDD、DVD)などは、その装置が停止中(電源断中)の衝撃では結構強いのですが、装置が動作中では、特にHDDは横からの衝撃に弱く、DVDやFDDなどは埃に弱い性質を持っております。

また、液晶のディスプレイでは、硬質の保護カバーが使われていないものは、鋭い物で突くとひとたまりもありませんし、強い圧力をかけても壊れます。ノートパソコンの多くはこのタイプです。

内部の電子部品は、電氣的衝撃(瞬間的な高電圧でも)に弱く破損してしまうことがあります。電氣的衝撃とは何でしょうか？ 通常の状態では雷(落雷)がそれにあたります。近くに落雷があると、その衝撃電圧が電源線を、インターネット接続の電話線を通じてパソコンの中に入り込み、電子部品を破壊することがあります。雷が近づいて来たらパソコンを停止し、電源線と通信線をいったん外すと良いのです。また、めったにすることは無いと思いますが、パソコンの電源コンセントを瞬間的に抜き差しするのも良くありません。

温度のほうでは、半導体電子部品、特にCPUなどは温度が高くなると、通常状態より電気が流れやすくなり、熱暴走という厄介な現象を起こしてしまいます。パソコンの電源を入れるとファンの回転音が聞こえますね。ファンはその防止のためにあるのです。

ソフト類も通常の使い方では壊れることは無いのですが、ソフト的破損の主要原因はパソコンの使用者(あなたです)のちょっとした不注意によるものがほとんどです。ごくたまーに、コンピュータウイルスによる破壊があるかもしれませんが。

それからもう一つ、電氣的衝撃もソフト的破損の原因になってしまう場合もあります。先に説明した衝撃電圧が原因であるほかに、強い電波(通常の家ではありません、不法電波です)も同じことになります。

パソコンはプログラムに従って動作していますが、電氣的衝撃がCPUに渡されるプログラムの一つの命令に影響し、別の動作の命令に変えてしまい、まったく別の動作をさせてしまうことが起こるからです。

いまのパソコンは大変便利にできております。同時にいくつものデータを開いたり、複数のプログラムを使うことができます。しかし、これはパソコンのメモリーが十分に搭載されていればいるほど(搭載上限有)十分に機能してくれますが、仕事量が増えていくとパソコンの動作が遅くなったり、場合によってはパソコンの動作にとって重要な情報を記憶している部分を侵略破壊してしまうようなことが起こると、正しく動作しなくなってしまいます。

念のため、動作が遅くなったかなと感じたら、使わなくてもよくなったソフトはこまめに閉じ、必要なものだけを使いましょう。

また、一つのソフトであっても一日いっぱい使い続けていると、メモリー上のワークスペースを使いすぎ動作しなくなることがあります。特にワープロや画像処理ソフトで大容量のデータを使い続けているときなどは、念のため作業中のデータをいったん保存し、ソフトも終了させた後、いったん電源を切り再度起動しなおして使ってください。

だからといって、せっかくのパソコンを棚の上へ上げてしまう必要はまったくありません。手荒く扱うことが無いようにし、ちょっとした操作ミスをできるだけ少なくするよう使いながら慣れてゆけばよいのです。

2 アレー！昨日作ったファイルはどこだろう！？ 見つからない、どうしよう！

せっかく作ったファイル！、再度使おうとしたけれど、どこにも見つからない。このような経験は無いですか？

たいていの場合はハードディスクから完全に消してしまうことは無いのですが、一つ注意していただきたいことがあります。

前にも説明しましたが、ファイルの名前は一つの保存場所(フォルダ)の中では、同じ名前のファイルを二つ作ることができません。ところが、前に作ったファイルを参照して別物を作り、そのまま保存する場合、いつもの癖でついつい「上書き保存」を行ってしまうと元のファイルは、いま作り直したファイルに置き換わってしまい、完全に消えてしまい戻すことができなくなってしまいます。参照した元ファイルを残してお

きたい場合は、必ず別のファイル名で保存するか、別のフォルダをつくりそこに保存してください。
さらに、データ類の保存場所も、慣れるまでは必ず「マイドキュメント」フォルダの中に保存しましょう。

3 パソコンが変だ!? どうしよう!

パソコンを使っているうちに、なにか変だ、動かない、と感じたら
まず落ち着きましょう! ゆっくり深呼吸をして、そして**メモの用意**をしてください。
パソコンの画面や、ランプ等、音、周辺装置の状態などをゆっくり確かめてください。

- ・砂時計アイコンはありませんか?
しばらく待ってみましょう!
- ・小さなウィンドウが出ていませんか、小さなウィンドウ隠れていませんか?
画面やタスクバーを良く見てください。
出ている、隠れているウィンドウを順番に閉じてみましょう。
- ・なにかのランプが点滅、普段点灯していないランプが点灯していませんか?
何のランプなのか確認し、その原因を取り除きましょう
HDDのランプなら、しばらく(数分、場合によっては数時間)待ってみましょう
- ・なにか音が鳴りませんでしたか、鳴り続けていませんか?
- ・周辺装置はどうですか?

「何をしているときに」、「どのようになってしまい」、その後「どんなことをした」のかを、可能な限り詳しくメモしてください。これらの全てのことがパソコンを復旧させる上で大切な鍵になるのです。さらに、自分でパソコンを回復させようと何かを行う場合は、落ち着いてゆっくり待ち時間をとりながら、画面状態やランプ等の状態、音などを確かめつつ、そして一々メモをとりながら作業を進めてください。

4 うっかりミス、したこと無い?

! 知らず知らずに、マウスをクリックしていた、とか!

マウスを操作するとき、緊張しすぎていつの間にかクリックしてしまうとか、ドラッグをしてしまったとか、操作しているときは夢中なので気が付かないこともあります。また、クリックするとき、つい力が入ってしまいマウスが少しずれてしまい、目的とは別の部分をクリックしてしまうことは、しょっちゅうあることです。

イージーミスは恐れることはありません。

もし、急に予期せぬ画面に変わったりした場合は、ミスったかな、と早く気づく事が一番大切です。

そんなときは、前にも書きましたが、ぜひ深呼吸を、そしてメモの準備をしてください。落ち着いたら、おもむろに画面の中を見回してください。

新しい画面が開いてしまった場合は、右上の「閉じる」ボタンをクリックしてください。

「OK」とか「はい」ボタンが出ている小さなウィンドウも「閉じる」です。

新しい画面ではなく、メニューなどが出た場合はキーボードの左奥にある「Esc」キーを押し、操作を取り消してください。

また、ソフトによっては、今行った操作を元に戻すための「元に戻す(アンドゥ)」ボタンをクリックしてください。これで今のミス操作が取り消され、前の状態に戻ります。

! キーボードのダブルタッチ(指先がふるえて)、押し続け!

キーボード操作も同じことが言えます。チョンとキーを1回押すだけだったのに、2、3回押してしまっていた、押すつもりは無かったが、気がついたら同じ文字が幾つも並んでいたなどと。

もし、文字が入り込んだ場合は編集キー(BackSpace、Delキー等)を使い消してください。

新たに画面が出てきた場合は、マウスの場合と同様に!

ミスの中で、一番恐ろしいのは、パソコンやソフトにとって大切なファイル類を、知らぬ間にどこかへ移動してしまったり、消してしまうことです。

いろいろな操作、特に削除する操作では、確認の画面が出ますので、間違っても「yes」、「OK」、「はい」などは、クリック(入力)しないようにしてください。

「閉じる」、「いいえ」、「No」、「キャンセル」等で操作を取り消すようにしてください。

5 パソコンから人への、メッセージ、悲鳴！ パソコンも文句を言いますよ。

パソコンは、通常あなたの言いなりで、有能に一生懸命仕事をしてくれます。しかし、あまりにも酷使するとパソコンだって疲れ果ててしまうこともあります。

また、パソコンは利口なようですが、実は融通が利かない厄介な面も持ち合わせております。

あなたのちょっとしたうっかりミスも、素直に受け入れ実行してしまいます。その結果、変なところに入り込んでしまっても誤りに気づくこともなく突っ走って(同道巡り)しまったり、何も来ることが無い窓口でいつまでも待ち惚けしています。

これらの結果として、われわれ利用者には、パソコンが変だ、動かなくなった、などの症状としてあらわれてきます。

パソコンはその内部で作業を進めるとき、「今はこのような状態ですよ」とか、「そのとうり実行してもよいのですか」、「疲れてきました」、「仕事が多すぎます」などと、われわれ利用者にメッセージを出してきております。それらのメッセージを見逃さぬようにしてあげてください。

メッセージが現れる場所は、

パソコンのあちこちにあるランプの色の变化や点灯、滅灯、点滅
画面上に現れる小窓と、タスクバー
スピーカーからの音
パソコンの動作スピード

これらパソコンからのメッセージを、見逃さないように少し気を配ってください。

我々はついつい一生懸命仕事を進めていくと、そのことに熱中しすぎ、パソコンからのメッセージや悲鳴を見逃し、自分の作業のつもりで行った操作が、パソコンからのメッセージの回答として扱われてしまっは大変です。

6 最終手段 **！最終的な方法！**

もし、パソコンが動かなくなった、キーもマウスも受け付けなくなってしまった(フリーズ状態、だんまり、固まった、ハングアップ、などといいます)場合は、

しばらく様子を見ても何の変化も無く(マウスを動かしてみても)どうしようもないときは、最終的な方法として、「**Ctrl**」+「**Alt**」+「**Del**」(「**Ctrl**」keyと「**Alt**」keyを同時に押しながら「**Del**」keyを押す)を実行します。状況により、いつも同じとは限りませんが、「プログラムの強制終了」ウィンドウが開くので、もう一度、「**Ctrl**」+「**Alt**」+「**Del**」を実行してください。パソコンは強制終了し再起動します。

再起動には、通常の起動より時間がかかることがあります。あせらずに待ってください。

「**Ctrl**」+「**Alt**」+「**Del**」を実行し少し待っていても、変化が無いとき(ハードディスクランプも点滅していない)は、電源ボタンをしばらく(5秒程度)押し続けてください。パソコンの電源が切れます。

少し待って(1分近く)待ってから、電源を入れてみましょう。ハードディスクの検査、修復の画面が出てから(結構時間がかかります)WINDOWSの起動が行われ、デスクトップ画面が表示されます。

もしも、「セーフモード」という状態で立ち上がったならば、WINDOWSの起動完了後、正しい終了手順でWINDOWSを終了させてください。

少し間(1分近く)を置いてから、再度、起動してみます。一見、正しく立ち起動したようなら、状態が悪くなったときに使っていたソフトや、普段使っているソフトを起動してみてください。どれも正しく起動したなら、よかったな~！ と思ってください。ただし完全にもとの状態に戻っている保証はありません。

！それでもダメなら、先輩に、買ったお店へ相談！

いろいろやってみてもやっぱりダメな場合は、パソコンの先輩に相談してみたり、パソコンを買った店、そのパソコンのメーカーへ相談してください。

この場合、特に大切なことは、

- ・ **どんなソフトを**
- ・ **どうしているとき(使っていた状況をできるだけ詳しく)**
- ・ **どんな状態になったか(画面、ランプ等、キーボード等周辺装置を含めて)**

・その後、どんなことをしたのか
・さらに、装置の型式名、OSの名前とバージョン、メモリーの搭載容量、周辺装置名等
これらのほか気が付いたこと(音がしたとか、周辺装置が止まってしまったとか)を、メモしておき、その内容を説明しながら相談してください。ただ、「パソコンが変なのですが」だけでは、相談を受けた側で困ってしまいます。

7 大事なものは **！大事なデータファイルは、バックアップしましょう！**

もし、パソコンが壊れたらどうしますか、お金は掛かりますがパソコンは買うことができますね、しかし苦労して作ったいろいろなデータ、一生懸命打ち込んだ住所録、取り貯めた素敵な思い出の写真、お金を出しても戻ってきません。

先に説明したように、パソコンは何かの拍子でトラブルを起こすことがあります。

最近は少ないかもしれませんが、フロッピーディスクを使っていて、操作ミスや磁石の影響などで読み取れなくなってしまうことがよくありました。

このようなことから大切なデータを守るためには、バックアップを取るよう心がけましょう。

パソコンにおいてバックアップとは、データ等を現在保存してあるところから、別の媒体(HDDの別ドライブを含む)に複製しておき、元のデータが破損したときそのコピー(バックアップ)から復元するための複製です。

バックアップを取ると言っても、どこにバックアップしたら良いのか、ちょっと問題が残ります。

自分のパソコンにフロッピーディスク装置はあるのか、データの大きさ(容量・サイズ)はどのくらいなのか、等々ですし、さらにコストの問題もあります。

・もし、読書きできるDVD装置が付いているのなら、DVDにバックアップするのが一番良いのかもしれませんが。

・ハードディスクが、論理的に2分割されているパソコン、CドライブのほかにDドライブもあるパソコンでは、Dドライブのほとんどのスペースが空き領域になっていますので、そこにバックアップするのが、手っ取り早く安く上げる方法です。

それは、CドライブにはOSや各種のアプリケーションソフト、設定情報、そして作ったデータを保存していた、マイドキュメントなどが格納されており、もし設定情報やプログラムが壊れてしまい、新しいシステムやプログラムを入れなおすこと(フォーマット&インストール)になったとしても、Cドライブだけの作業で済み、Dドライブはそのまま助かることが多いからです。

ただし、ハードディスクそのものが壊れた場合は、どうしようもありません。

・もし、バックアップすべきデータの容量が僅か(1MB程度以下)で、装置にFDDがついている場合は、FDDにバックアップするのが良いでしょう。(自作した文書(画像なし)や表計算のデータ、重要なメール)

・USBメモリーには相当量のデータが入りますので、これも良い方法でしょう。

・CD-ROM書き込み装置があれば、これにバックアップしておくのが大変良いのですが、再書き込みできないので、コスト面で幾分不利でしょう。写真などは整理した後CD-ROMに！ 良いのでは！

8 パソコンを守りましょう

！インターネットを使わなければ、パソコンもつまらないですよ！

パソコンを手に入れ、一人でパソコンを使っているだけでも、それなりの楽しみや喜びはあるでしょう。が！インターネットに接続することで、メールやホームページを有効に活用することができ、パソコンの先にいる多くの人とのつながりを持ち、交流の輪を広げ、そして無限の情報を活用しながら、豊かで充実したシニアライフを目指してこそ、OSSメンバーの本分でしょう。

パソコンを持ち、インターネットに繋げる、それが目的ではありません。それらは単なる手段であり、それから先が活用しだいで無限に広がっているのです。

しかし、無防備なままパソコンをインターネットに接続すると、その瞬間から世間の荒波にさらしてしまい、そのパソコンではすぐに悪意の餌食になってしまい、ウイルスに感染するだけでなく場合によっては大切な情報を盗み出されたり、知らぬ間に悪意の手先としてウイルスをばらまいたり、サイバテロの中継基地になってしまうこともあります。

パソコン犯罪の加害者(被害者ではないですよ!)にならないために!

?なぜ? 自分が犯罪加害者なの、なにもしていないのに?!

悪意な犯罪の被害者になったのならば最悪で泣き寝入りで済ませることができるでしょうが、何もしていないのに加害者になってしまうのは、合点が行かぬと言われそうですが、何もしていないからそうってしまったのです。

コンピュータ(ネットワーク)の悪意の種類には、**コンピュータウイルス(ウィルス)やワーム、ウィルスの再配布、データの収集転送(スパイウェア)、不正アクセスやD o s 攻撃(サービス不能攻撃)とその踏み台(中継者)**等々とさまざまとあります。

その手法の主なものは、**なりすまし、セキュリティホールへの攻撃**等があります。

なりすましとは、利用者(あなたです)にとって有用なメールや情報であるように装って(なりすまし)、メールを開かせその添付ファイルを開かせたり、悪意のソフトをダウンロード(ネット上から自分のパソコンに取り込む)させる方法です。

セキュリティホールへの攻撃とは、ソフトウェアの不完全部分を悪用してそこからパソコン内へ、悪意のソフトを送り込むことです。

悪意のソフトの中には、メールやホームページに使う通常の入出力口(通信ポート)のほかに、**バックドア**と呼ばれる裏口を勝手に作り、パソコンの利用者が知らない間に、勝手にさまざまな悪意の活動を始めてしまうものまであります。

!ならば、どうしたらいいの?

- ・**先ず実行していただきたいことは、最新版のウイルス対策ソフト(セキュリティソフト)の導入**です。
(大手のセキュリティソフトメーカーの製品は、バージョンアップサービス(有料)期間が決まっており、その期間より前の製品は役に立ちません。)
- ・常に注意し、心がけてほしいことは、**OS等の最新版への更新とウイルス対策ソフトの最新版への更新**
- ・時々実行してほしいことは、**ハードディスク等のウイルスチェック**
- ・**年一度、ウイルス対策ソフトの利用契約の更新(有料)**
- ・**毎回心がけてほしいことは、パソコンを使うとき起動し、パソコンから離れるときは終了**しましょう。特に、常時接続のパソコンは、パソコンを使っていないときは電源OFFにしましょう。
常時接続のパソコンは、電源が入りパソコンとして立ち上がっていると、常に外部と接続されていることから、**セキュリティソフト未対応の悪意の攻撃が入り込む可能性がある**からです。
(悪意のソフトは日々新しく作られ、ソフト自身が勝手に作ることもあります。)

ローマ字入力一覧

あいうえお a i u e o	かきくけこ ka ki ku ke ko	さしすせそ sa si su se so shi	たちつてと ta ti tu te to chi tsu		
なにぬねの na ni nu ne no	はひふへほ ha hi hu he ho fu	まみむめも ma mi mu me mo	やいゆいえよ ya yi yu ye yo		
らりるれろ ra ri ru re ro	わういううえを wa wi wu we wo nn				
がぎぐげご ga gi gu ge go	ざじずぜぞ za zi zu ze zo ji	だぢづでど da di du de do	ばびぶべぼ ba bi bu be bo		
あいうえお xa xi xu xe xo la li lu le lo	うあういううえうお wha wi wu we who	ヴあ ヴい ヴ va vi vu	ヴえ ヴお ve vo	カ xka lka	ケ xke lke
きや きい きゆ きえ きよ kya kyi kyu kye kyo	ぎや ぎい ぎゆ ぎえ ぎよ gya gyi gyu gye gyo				
くあ くい く くえ くお qa qi qu qe qo	ぐあ ぐい ぐう ぐえ ぐお gwa gwi gwu gwe gwo		どあ どい どう どえ どお dwa dwi dwu dwe dwo		
しゃ しい しゆ しえ しょ sya syi syu sye syo sha shu she sho	じゃ じい じゆ じえ じよ zya zyi zyu zye zyo jya jyi jyu jye jyo ja ju je jo		すあ すい すう すえ すお swa swi swu swe swo		
ちゃ ちい ちゆ ちえ ちよ tya tyi tyu tye tyo cha chu che cho cya cyi cyu cye cyo	ぢゃ ぢい ぢゆ ぢえ ぢよ dya dyi dyu dye dyo		つあ つい つ つえ つお tsa tsi tsu tse tso	っ xtu ltu	
てや てい てゆ てえ てよ tha thi thu the tho	でや でい でゆ でえ でよ dha dhi dhu dhe dho		とあ とい とう とえ とお twa twi twu twe two		
にや にい にゆ にえ によ nya nyi nyu nye nyo					
ぱぴぷぺぽ pa pi pu pe po	ぴゃ ぴい ぴゆ ぴえ ぴよ pya pyi pyu pye pyo		ひゃ ひい ひゆ ひえ ひよ hya hyi hyu hye hyo		
びゃ びい びゆ びえ びよ bya byi byu bye byo					
ふあ ふい ふ ふえ ふお fa fi fu fe fo	ふゃ ふい ふゆ ふえ ふよ fya fyi fyu fye fyo				
みや みい みゆ みえ みよ mya myi myu mye myo	ゃ ゆ よ xya xyu xyo lya lyu lyo	りゃ りい りゆ りえ りよ rya ryi ryu rye ryo		わ xwa lwa	

小さい文字

あいうえお	カケ	つ	やいゆえよ	わ
xa xi xu xe xo	xka xke	xtu	xya xyi xyu xye xyo	xwa
la li lu le lo	lka lke	ltu	lya lyi lyu lye lyo	lwa

変換を使って

wi	うい	「変換」	ゐ 𠬞
we	うえ	「変換」	ゑ 𠬟